

所蔵資料紹介

「常磐炭田関係資料」

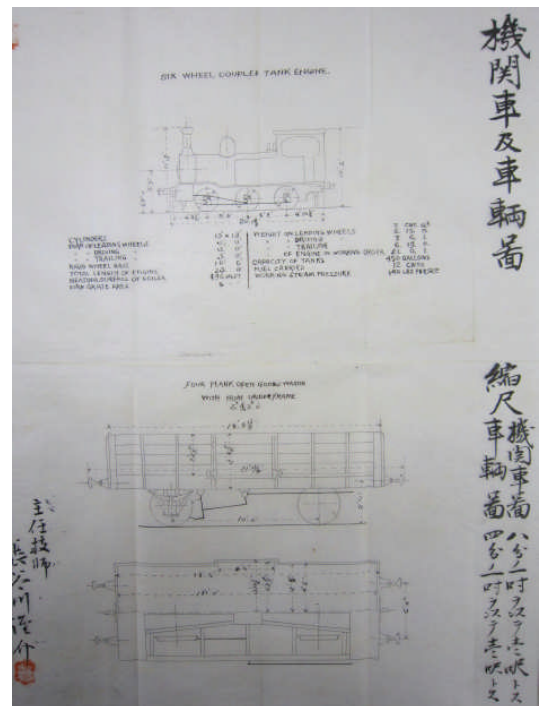
常磐炭田は、北は福島県双葉郡から南は茨城県日立市にまたがる炭田でしたが、その常磐炭田に関連する当館で所蔵している資料をいくつか紹介します。

明治30年に水戸平間の日本鉄道磐城線(現在のJR常磐線)が開通すると、それより前に開通していた土浦線・隅田川線と併せて東京地区への連絡が容易になりました。磐城線建設は、その地理的位置から東京地区への石炭供給地として常磐炭田に着目されたためです。磐城線が開通すると各炭鉱会社は、炭坑口から停車場まで石炭を運搬する砒業用鉄道敷設を出願して許可されています。行政文書「明治29年10月～明治33年各鉄道敷設願関係書類」には、北中郷村地内砒業鉄道(現北茨城市)や茨城炭砒業用馬車鉄道(現北茨城市)、秋山炭砒石炭運搬用鉄道(現高萩市)、手綱炭砒石炭運搬用鉄道(現高萩市)などの石炭運搬用鉄道敷設許可関係文書が綴られており、工事方法書や予算書、図面(写真1)、命令書が添付されおられます。これらの資料から鉄道敷設の申請許可の経過、状況を窺い知ることができます。この砒業用鉄道の敷設により、以前は人力・馬力運搬、海上輸送に頼っていたものが、鉄道に切り替わり、石炭が安全かつ大量に運ばれるようになりました。

写真1 北中郷村地内砒業鉄道敷設許可願に添付されている「大塚炭砒線路工事方法書出願に要する図面」より



大塚炭砒鉄道線路平面図



機関車及車輛図

戦後の常磐炭田の様子が伺える資料として常磐炭砒株式会社茨城砒業所が刊行した所内誌「茨城砒業所タイムス」があります。常磐炭砒株式会社は、映画「フラガール」で話題になったスパリゾートハワイアンズ(旧常磐ハワイアンセンター)を運営している常磐興産株式会社の前身です。茨城砒業所は北茨城市の神ノ山砒・中郷砒を中心に石炭採掘をしていて、戦後の石炭産業の発展に大きく関わっていました。

茨城砒業所は昭和20年5月1日に設置されますが、タイムスは昭和25年3月発刊で、当館では創刊号から昭和46年までを所蔵しています。記事の内容は会社の運営、機械の導入(写真2)、労働者生活・娯楽に関するものも多く含まれています。戦後の常磐地域の石炭産業全般を知る上で有用な資料です。

戦後の石炭産業は、石炭や鉄の生産を優先した傾斜生産方式、朝鮮戦争による特需景気、昭和30年代の高度経済成長により大きく発展していましたが、石炭から石油へ転換するエネルギー革命などによって状況が変わり閉山が相次ぎます。

そのような中、茨城砒業所は昭和43年に出炭量100万トンを超えて、過去最高を記録するなど活況を呈していましたが(写真3)、昭和46年に出炭量増加を期待されていた中郷砒の新坑(写真4)が開削間もなく出水事故に会い、閉山を余儀なくされ、それより先に坑内条件悪化のため神ノ山砒も閉山しており、常磐炭田は終息を迎えることとなります。

行政文書「産炭地域振興関係綴」「昭和46年度～昭和47年度茨城県石炭鉱業閉山対策係綴」「昭和46年常磐炭砒茨城砒業所閉山関係綴」には、国や県の石炭危機打開案、閉山対策がみられ、閉山後の地域経済の崩壊を防ぐためにさまざまな対応をしているのがわかります。特に、工業団地造成など地元の積極的な工業振興開発施策により、石炭産業に変わる新しい工業都市への転換が進められていきました。



写真2 設備拡充を伝える記事(昭和45年10月1日付)



写真3 出炭量100万トンの記事(昭和44年4月1日付)



写真4 中郷砒新坑開削の記事(昭和46年7月21日付)